

AG 一人前の人間をかたち作るとはどのようなことなのか、 その諸条件について検討する

中山 一樹

1953年、茨城県生まれ。教育学専攻。

1. 専門演習の目標

他者とともに学ぶ場を作る（主宰する）という体験をすること。学びにおけるお客様をやめる体験をすること。

2. 専門演習で扱う課題と内容

下記の文章はジェリー・H・ギル（『学びへの学習論』青木書店 2003年）からとったものです。これらのどこかに感応する学生のみなさんとともに学びたいと考えています。

- 1 「学生たちは、教育とは決められた時間を学校ですごし、たくさんの履修単位を集めることだと考えることにあまりにも慣れてしまっているから、自分自身の教育に最終的な責任をもつのは自分しかいないという考えに対して勝手の違う怖いことという印象をもつ」 p.98
- 2 「学生たちが、自分たちの教育の責任は誰かほかの人がとるものだと考えるようになったのは、教育政策と教育実践が、教育することを資格を与えることと同一視したからだ。もし知を目的とするつもりならば、相互行為的な学習をするしかない」 p.99
- 3 「ほとんどの教師は学生と接する際に、あるいは接しそこねる際に、学生の物理的、心理的、そして社会的要求を、教育実践にとってまったく関係ないものであるかのように扱う」 p.196
- 4 「いったん学生たちの思考をまじめにとりあげようになると、思考が形を成し、より堅固で実りあるものになっていくようすをみて、驚きと満足を感じるようになる」 p.103

3. 授業の進め方・内容

3回生前期は基礎的テキストの読解を行う。夏期休暇以降は、購読と各自のテーマを探るべく個別報告を行う。読書ノート作成や報告レジュメ作成を習慣化する。

4回生前期は就職活動などに出向くときに根拠地として、準備や情報交流の場も兼ねる。

4回生夏休みから後期は、卒業論文の主題設定、構想、執筆にあてる。

毎週のゼミの他に合宿などを行いたいが、これもゼミ生の発意に依る。

4. 必要とする知識

これまでに学んだ知をため込むのではなく、それを活用し運用する能力

5. 関連する分野・科目・知識

特になし

6. テキスト・参考書・機材（受講生が標準的に持つもの）

開講後1か月ほどは、自己紹介をしながらゼミ生の呼吸を整えます。その中で出された話題を素材に関連したテキストや論文、そして資料映像を交えて意見交換してゆきます。2010年度の場合は、森真一『「お客様」がやかましい』（ちくまプリマー新書、2010年）、耳塚寛明「だれが学力を獲得するのか」（『学力とトランジションの危機』2007年、所収）。等から読み始めました。

7. 独自に付加する選考方法

なし

8. 受講生に望むこと

自分も乗っているゼミという山車を動かしたり、御輿を持ち上げてみましょう。